

# 児童が主体的に取り組む道徳科の研究 ～「考え、議論する道徳」の授業の充実を目指して～

天城町立天城小学校 教諭 初田 健一

## — 目 次 —

I	研究主題	1
II	研究の目的	1
	1 研究主題設定の理由	
	(1) 今日の教育の課題	
	(2) 学校教育の課題	
	(3) 子どもの実態	
	(4) 教師の願い	
III	研究の主題（実践の柱）	2
	1 研究の視点1（柱1）	
	2 研究の視点2（柱2）	
IV	具体的な研究内容	2
	1 研究の視点1における手立て	
	(1) 導入の工夫	
	(2) 自分の意見をもたせるための手立て	
	(3) 発表の工夫	
	2 研究の視点2における手立て	5
	(1) 心情曲線の活用	
	(2) 心の天秤の活用	
	(3) 板書構造の工夫	
	(4) 振り返り（来年度への引き継ぎ資料作成）の取り組み	
V	研究の実際	7
VI	実践のまとめ	8
	1 成果	
	2 課題	
VII	おわりに	8

### 【参考文献】

- 「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 文部科学省（平成29年）
- 「道徳教育の充実に向けて」 鹿児島県教育委員会（平成30年）
- 「考え、議論する道徳に変える指導の鉄則50」 明治図書（平成29年）

## I 研究主題

### 児童が主体的に取り組む道徳科の研究 ～「考え、議論する道徳」の授業の充実を目指して～

## II 研究の目的

### 1 研究主題設定の理由

学習指導要領が改訂され、「特別の教科 道徳」になった。教科になっても、日常の生活体験との深い関わりを意識しながら、教育活動全体を通して学んでいくことは変わらない。単なる技術の習得や知識の獲得が目的ではなく、人としてよりよく生きるという、ある意味、教育全体の最終ゴールを担う重要な教科である。しかし、これまでの自分自身の取組を振り返ると、どうしても教材文の読解に多くの時間を費やし、自分の考えを基に話し合わせる時間が少なくなっていた。そこで、児童が主体的に「考え、議論する道徳」の授業をしたいと思い実践してきた2年分（川内小7年目3年担任、天城小1年目4年担任）をまとめることにした。

#### (1) 今日の教育の課題

これまでの「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（道徳科）として全面実施されて2年目になる。学習指導要領も一部改訂され、目標が「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる。」となった。これによって「特別の教科 道徳」では、道徳的な価値を自分のこととして捉え、「考え、議論する道徳」へと転換し、特定の考え方に無批判で従うような児童ではなく、主体的に考え未来を切り開く実践力のある児童を育てようとしていると言える。そのような児童を育てるためには、物事を多面的・多角的に考え、自己の考えを明確にし、それを実現できることが大切である。

#### (2) 学校教育の課題

本校の学校教育目標「自ら学ぶ意欲とユイの心を持ち、気力あふれる天小っ子の育成」を受け、本校の道徳教育目標は「学校の全教育活動を通して、よりよい生き方を目指す道徳的態度と道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる」である。児童があらゆる状況の中で自ら考え、相手の気持ちを大切にしながら、主体的に判断し、行動する力は、「生きる力」を育成するうえで必要不可欠である。そこで、道徳の授業においては友達との意見の交流を通して、自分とは違う友達の意見も受け入れつつ、よりよく生きていくうえで必要な道徳心を育てていくことが大切である。

#### (3) 児童の実態

本校では、道徳の授業に対して、意欲的に取り組む児童が多い。しかし、みんなの前で自分の意見を言うことに抵抗を感じている児童もいる。そこで、自分の意見をしっかりとつことができるような手立て、さらに、その根拠（理由）までしっかりと友達に伝えるような手立てを考えていきたい。

#### (4) 教師の願い

新しい学習指導要領では、「主体的」「対話的で」「深い学び」について強調されている。これまでの私自身の道徳の授業を振り返ると、児童が本音ではなく建前でありきたりの発言をして、なんとなく「考えたつもり」にさせて満足させていた気がする。そこで、自分の意見（立場）をはっきりさせてその根拠をじっくり考えたり、互いの意見を交流して自分にはない友達の新しい道徳的価値観に気付いたりできるような実践をしていきたい。

そのためには、児童が「自分の考えを伝えたい」「友達の考えを聞きたい」「授業前と授業後の自分の価値観の変容（自分自身の成長）について考えたい」と思えるような手立てや視覚的に分かりやすい板書になるような実践を積み重ねていきたい。

### Ⅲ 研究の主題（実践の柱）

#### 1 研究の視点1（柱1）

児童が「考え、議論する」道徳にするための指導方法の工夫

#### 2 研究の視点2（柱2）

視覚的に分かりやすい板書の工夫

### Ⅳ 具体的な研究内容

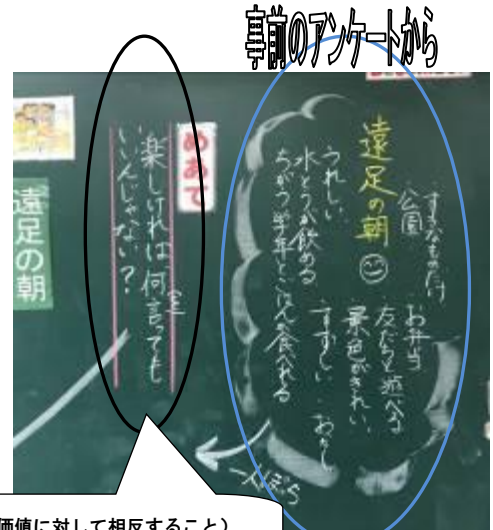
#### 1 研究の視点1における手立て

##### (1) 導入の工夫

##### ア アンケートの活用

事前のアンケート調査から、めあてにつながる内容を多く板書し、「分かっているけどできない」「よく考えると自己中心的な考えだ」といった、考え（知識）と行動の矛盾に気付くことができるようにする。

こうすることで、「みんなで話し合いたい」「考えてみたい」と思うようなめあてを児童から引き出すようにする。



##### イ めあてのつくり方

考えてみたい道徳的価値のめあてにするために日常生活を振り返らせながら、児童とのやりとりの中で「今日、みんなで考えてみたいめあて」について焦点化を図っていく。

従来の「～するためには、どうすればいいのだろうか。」というめあての他に、「(道徳的価値に対して相反すること) いいんじゃない？」というようめあても設定するようにした。

「楽しければ、何を言ってもいいんじゃない？」 → 「YES (よい) / NO (悪い)」  
「嫌われるから、正しいことでも言わない方がいいんじゃない？」 → 「言う / 言わない」  
「見た目が悪い動物は大切にしなくてもいいんじゃない？」 → 「(大切に) する / ししない」  
「自分には関係ないから注意しなくてもいいんじゃない？」 → 「(注意) できる / できない」

自分の意見をはっきりさせることになり、友達に自分の考えの根拠（理由）を伝える授業に変わった。クラス全員が自分の考えをしっかりとって授業に取り組むようになった。さらに、自分の考えと友達の考えの違いを知ろうと「聞く意識」も高まったように感じる。

##### (2) 自分の意見をもたせるための手立て

##### ア ホワイトボードの活用

自分の考えをしっかりとらせるために、一人一人にミニホワイトボード・ペン・スポンジを持たせた。道徳の授業以外にも活用することで、自分の考えをもって授業に取り組むようになった。初めころは、文字が小さかったり、長文で書いたりすることで、黒板に貼ったときに見えにくかったり、書いたものだけをそのまま読み上げたりする児童が多かった。また、自分の考えと根拠（理由まで）の両方をホワイトボードに書く児童も多く、交流が活発にならなかった。それは、伝える相手を「ホワイトボードを見れば言いたいことが分かるよね。わざわざ友達に伝える必要があるの？」という雰囲気にしてしまっていたからだ。そこで、ホワイトボードには、

「自分の考えを短く、大きく書く」「伝えるときには、書いていない根拠（理由）も言う」

というルールを作った。すると、交流の際に「自分の考えの理由を友達に伝えたい」「なぜ友達はこの考えなのか？理由は何なのか聞きたい」という活発な雰囲気になった。

#### イ ネームプレートの活用

自分の考えをホワイトボードに書いて、名前プレート（白）と一緒に黒板に貼るようにした。さらに、自分の考えが3段階のどこなのかはっきりさせるようにした。また、終末で自分の考えが変わった児童は、裏(赤)に変えて貼りなおすことで、視覚的に自分の変容やクラス全体の道徳的価値観の変容が一目で分かるようになった。



考えが変わった児童には、「なぜ変わったのか？」聞くことができた。子どもたちの多くは、

「〇〇さんの、(こんな)意見を聞いて、(こんな)考えに変わりました。」  
「〇〇さんの、(こんな)考えは、自分にはこれまでなかったので、大切な考えだと思いました。」

と答えるようになった。つまり、ペアや全体での交流をとおして**道徳的価値観の変容**が見られるようになった。

#### (3) 発表の工夫

##### ア 3人組での交流活動…「どうぞ発表」

児童同士の交流活動を3人組にした。2人組では意見交流が活発にならず、4人組以上になると話し合いに参加しない児童がでるためである。3人組だと、必然的に話し合いに参加する状況になりやすいと考える。また、発表したい児童が先に発表するのではなく、「最後に手を挙げた児童が発表する」というルールにしている。先に手を挙げた児童が最後に手を挙げた児童に「どうぞ」と発表をゆずるイメージである。名付けて「どうぞ発表」。この「どうぞ発表」を取り入れてから、児童が楽しみながらお互いの意見を交流するようになった。コミュニケーションが苦手な児童にとっては、このような発表方法を取り入れたことで発表がしやすくなり、クラスみんなで楽しい雰囲気をつくりながら前向きに発表するようになった。これは、思春期になって発表が減ってくる高学年でも有効な手立てであると考えられる。



3人組での「どうぞ発表」。最後に挙手した児童から発表。



朝の会では「今日のめあて」。帰りの会では「今日の振り返り」で、3人組での「どうぞ発表」  
→ 拍手で賞賛することで自己肯定感を高める。

## イ 交流するときの約束事を明確にする

まず、交流するねらいを踏まえ、はっきり意識させてから交流させるようにしている。「何のための交流なのか。」「交流のあと何をするのか。」児童にしっかり伝えることで、なんとなく交流するという雰囲気がなくなり、交流活動の活性化につながった。

### <交流するときの視点>

- 考えの根拠を確かめる問い返しをして、答えは同じでもその根底にある考え方や感じ方は様々であることに気付かせるようにする。【他者理解】  
「なぜそう考えたの？」  
(いくつかの考えを整理して)「どの考えが大切だと思いますか？」など
- 考えが広がらなかつたり、表面的だつたりした場合には、機転を促す問い返しをする。  
「本当にそうなの？」  
「～という考え方もあるがどうでしょうか？」など

### <交流するときのルール>

- 自分の書いたノートを見せて指差しながら交流する。



どの授業でも、自分の一番伝えたいところを指差しながら意見交流。「なぜ?」「どうして?」の問い返しには、「だって～」で答える。



自分の考えをノートに書いた人から、教室の後ろで3人組の意見交流をする。教師の「やめ」の合図が出るまで相手を変えて交流する。

### <グルーピングの工夫>

- ジグソー的活動を仕組むことで、交流の目的をはっきりさせるようにする。  
(ジグソー活動は、他教科でも積極的に取り入れることで慣れている)



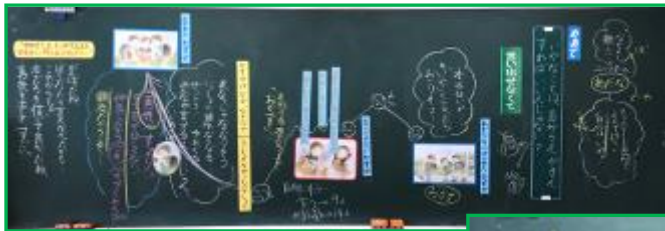
“同じ考えの人”同士での意見交流  
→自分の考えを**深める**ことが目的  
ここで、友達の考えを取り入れながら自分の考え・理由を固める。

“違う考えの人”同士での意見交流  
→自分の考えを**広げる**ことが目的  
自分とは違う考えの相手に、自分(たち)の考えを納得してもらえるように伝える。



## 2 研究の視点2における手立て

### (1) 心情曲線の活用



心の葛藤や変容が一目で分かるようにするために、心情曲線を取り入れた。心情曲線と一緒に心の表情（顔文字）を書き込むことでより分かりやすくなった。

教材文が難しいときには、最初に全ての場面絵（挿絵）を掲示するようにしている。そのときに心情曲線も書き込むことで、教材文の読み取りのレディネスをそろえることができた。



### (2) 心の天秤の活用



「はい／いいえ」「できる／できない」「する／しない」といった2択で自分の考えをもたせ、さらに3段階で自分の考えの位置を決めて意見交流（討論）させるようにした。

終末では、自分の考えが変わった場所に名前プレートを移動させるようにした。また、どうして考えが変わったのかの理由を聞くことで、よりねらいとする道徳的価値について考えることができるようにした。



### (3) 板書構造の工夫

時系列で登場人物などの気持ちの変化などを示した。

複数の登場人物の立場から考えた意見を、上下（または左右）に分けて板書することで視覚的に比較できるようにした。

立場の違う人（事）からの道徳的価値観を考えるために、色分けして板書するようにした。





(4) 振り返り（来年度への引き継ぎ資料作成）の取組



授業の板書



振り返り  
(引き継ぎ資料)

来年度の参考資料（引き継ぎ資料）になるように、  
掲示資料や板書の写真を教材ごとに透明な袋に入れて管理するようにした。板書写真には、授業の反省  
や課題点なども書き込むようにした。

反省を踏まえて次の担任がよりよいものに作り変えていってほしい。また、教材を作る手間を授業内容を考える教材研究に使えるので、働き方改革にもなると考える。



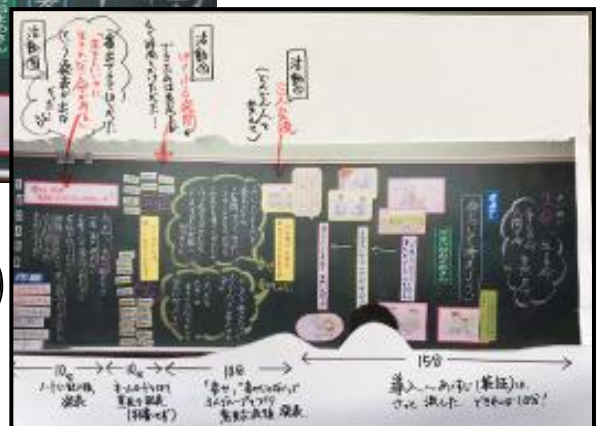
授業の板書

⇒ 振り返り(引き継ぎ資料)



授業の板書

⇒ 振り返り(引き継ぎ資料)



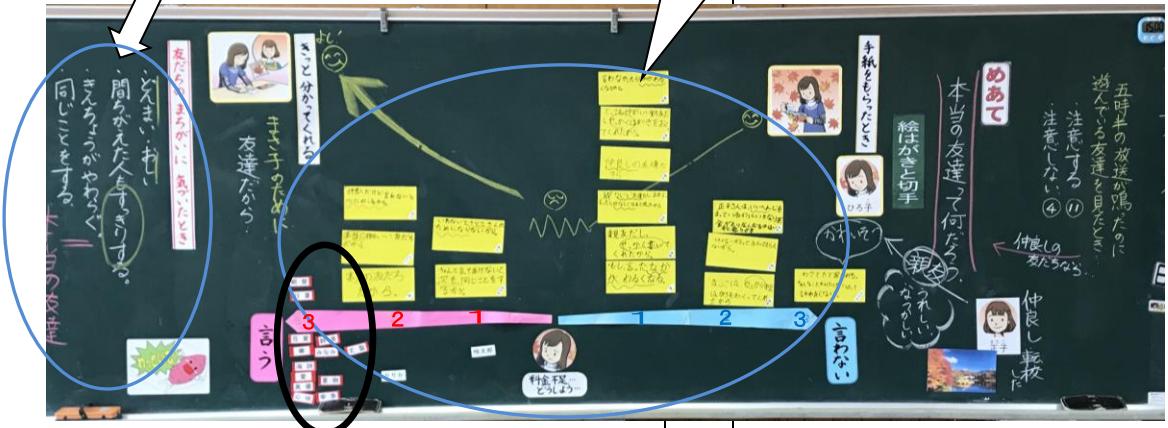
V 研究の実際（実証授業）

- 1 主題名 友達のことを考えて [内容項目：B 友情・信頼]
- 2 教材名 「絵はがきと切手」



3 指導の実際

指導過程	主な学習活動 ◎中心発問	時間	教師の手立て
見つめる	1 親切について話し合う。 みんなにとって、友達とはどんな人のことですか？ <b>より高め合う友達になるためには、どんな気持ちが大切だろう。</b>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果をもとに、日常を振り返りながら、問題意識をもたせる。</li> <li>○ 学習への意欲を高めるために、今日の授業で考えたいことを児童から出させる。</li> </ul>
問い直す  深める	2 教材を読み、「ひろ子」の気持ちを中心に考える。 (1) 手紙をもらった「ひろ子」の気持ちを考える。 正子さんから手紙をもらったとき、「ひろ子」はどんな気持ちになったでしょう。 (2) 母と兄の意見を聞いて、ひろ子はどんなことを考えたでしょう。 ひろ子は、母の意見(言わない)と兄の意見(言う)とどちらに賛成しますか。また、その理由は何ですか。 ・ 本当のことを教えてしまうのは、友達としてよくないのではないですか。 <b>高め合える友達って何だろう？</b>	20  12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 料金不足のことを教えるかどうか自分の意見をはっきりさせるために、名前プレートを黒板に貼って可視化させる。</li> <li>○ 自分の考えの根拠を明確にさせるために、ホワイトボードに一人ずつ理由を書き発表させる。</li> <li>○ 思考を深めさせるために、子どもの考えを揺さぶる発問をする。</li> </ul>
振り返る  あたためる	<b>最終に名前プレートを裏返し(白から赤へ)、位置を変える</b> <b>→道徳的価値観の変容</b> 3 今日の学習を振り返る。 友達が間違ったとき、どうしたらいいでしょう。その理由まで書きましょう。 <b>→3人組での交流活動</b> 4 教師の話を聞く。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の考えの良さに気づかせるために、お互いの意見を交流させる。</li> <li>※ 天城小振り返りの視点「わつとも」に沿って、自己変容を見つめる振り返りをさせる。(評価)</li> </ul> <p>わかったこと・使えた方法・友だちの良い考え活かせそうな場面・もっと知りたい</p>



「言う」「言わない」それぞれ3段階の場所に名前プレートを貼る



## VI 実践のまとめ

### 1 成果

- 児童にとって「考え、議論する道徳」となるために、一人ずつホワイトボードと名前プレートを準備し、自分の立場や考えを明確にしたり、視覚的に考えの変容が分かるようにしたりしたこと、自分なりの「学び合いの授業形態（授業の流し方）」をつくることができた。
- ホワイトボードに自分の考えを全て書くのではなく、大事なところだけを書き、その根拠（理由）は交流活動のときに補足して言うことで活発な交流活動になった。
- 3人組を多く取り入れ、「どうぞ発表」や「問い返しの発問をする」などのルールを作ることにより、より活発な交流活動になりこれまで以上に道徳的価値に迫る授業ができた。
- 場面絵（挿絵）等による色分けだけでなく、心情曲線、心の天秤などを取り入れることで、視覚的に分かりやすい板書になり、終末にねらいとする道徳的価値により迫ることができるようになった。

### 2 課題

- 授業の中での一人一人の道徳的価値観の変容を知るために、終末で名前プレートの場所を変える活動を取り入れたことは良かったが、振り返りでノートの記録を評価につなげるための手立てを考えていきたい。
- 「どうぞ発表」を取り入れたことで、楽しい雰囲気の中でみんなが発言するようになったが、自分の意見を言うだけにとどまっている児童もいる。もっと問い返しの発問（質問）が自然とできるような手立てや習慣化を考えていきたい。

## VII おわりに

私は道徳の授業力の向上のために、まず掲示物（挿絵）を毎週準備するところから始めた。掲示物があることで児童が一人の人間として、自分と重ねて教材を読むことができ、積極的な発言へとつながった。次第に、もっとよい授業がしたいと思うようになり、板書を視覚的に見やすくしたり、ホワイトボードや名前カードを活用したりする工夫を行った。そうすることで交流活動が活発になり、どんどん道徳の授業をすることが楽しくなっていった。私自身が楽しみながら道徳をするようになってから、クラスの中に「道徳が好きだ」「道徳は間違いがないからいいね」という児童がどんどん増えていった。「掲示物を準備してよかった」「教材研究してよかった」と思えるようになった。

また、校内研修（一人一授業）や校長研修会、教育実習生への提供授業、PTA 授業参観など、授業を参観してもらう機会があるときにできるだけ道徳の授業をしたことで、自分の中の「道徳に対する苦手意識」がなくなっていった。児童と一緒に道徳の授業をつくり上げる楽しさ・喜びを味わいながら、更に「考え、議論する道徳」を目指していきたい。